

作品サンプル

「爆尻実験白書」

— 母娘肛門連結エターナルスパイラル浣腸地獄 —

<あらすじ> 絶海の孤島、旧大戦時代に建造された日本の軍事施設は、最先端の人体改造研究所として現在も稼動していた。巨尻人妻トヨサカ・ミハルは拉致・監禁され、狂気の女医レディ・カラミティの「メビウスの輪」計画の実験対象として、コンプレックスの尻を改造調教されてしまう。どこにも逃げ場はなく、実験という名の狂った尻拷問にミハルは耐えるしかなかった。

ある日、彼女の部屋に、研究員の男達が押しかける。彼らはミハルの巨大化した尻をバックから襲い、徹底的にアナルセックスを仕込むのだった。

「あああつ、もう嫌あああ！！ 私のお尻、これ以上犯さないでええ！！」

研究員達が入れ替わり立ち代り、四つん這いで巨尻を突き出したミハルを、バックから激しく責め立てている。

男の研究員が犯しているのは前の穴ではない。巨大な尻肉の中心に咲く紅色の肉菊、すなわちアナルセックスである。

「おらあ、また出るぞ！ ケツ穴に注ぎ込んでやるから、ケツで妊娠しろ！ 分かったな、デカケツ家畜女！」

「あぐあああああ！！ 腸が灼けるうう……！！」

どくんっどくんっ……。

根元まで突き刺さった男根が脈動し、大量の精液をミハルの腸内に注ぐ。溶岩のように熱く粘っこいザーメンだ。本日これで何度目の腸内射精だろうか。息を荒くした男の研究員は両手でしっかりと巨尻を掴み、最後の一滴までミハルの中に注ぎ込む。ペニスが引き抜かれると、白濁した精液の残滓が肛門から溢れ出た。

ここ数日間、ミハルはぶっ続けでアナルを犯されていた。人妻は四つん這いで拘束され、食事やトイレの時間もなく、ひたすら研究職員達の慰みものとして扱われている。アナルセックス未経験のミハルは最初は男根の挿入を拒んだが、ダブルフィストで拡張された尻

穴は苦もなく男根を呑み込み、何度も見知らぬ男達の精液を注ぎ込まれた。

肛門と直腸を性器のように扱われるのは苦痛だったが、快樂がないと言えば嘘になる。残酷に開発された結果、ミハルは巨尻のSpankingやアナルフィストでも絶頂に至ってしまうほどアナル性感に貪欲になってしまった。まずアナルフィストで拡張し、それから無数の男根でアナルセックス漬けにする事で、女医はミハルの尻をさらに淫乱に開発するつもりなのだ。

絶海の孤島にカンヅメ状態の研究員達のストレスの捌け口は、ミハルのような実験動物に向けられる。彼女の部屋が『解禁』された時、多数の研究員が詰めかけ、寝る間もなくミハルのアナルは犯され続けた。四つん這いで拘束され、野の獣のようにバックで犯される。トイレにさえ連れて行ってもらえない。尻に出されたザーメンが許容量を超えると、男根が抜けた瞬間に白い溶岩を噴火してしまう。そのまま垂れ流しだ。顔どころか全身から火が出るほど恥ずかしいが、ミハルは心まで支配されまいと気丈に耐えていた。

「こら、勝手にザーメン出すじゃねえ。尻豚には勿体ないエリート様の子種だぞ。泣いてありがたがって受け入れろ。今日こそケツ穴で妊娠させてやるからな。そら、根元まで啜えろ」

ずぶずぶうううう！！

「あがあああ！！ もう無理ですう。お尻が壊れちゃう。少し休ませて……お願い」

白衣の男達は無視して、猛烈に前後運動を繰り返し、ミハルの肛門を責める。巨大な尻肉がタツタツと豪快に揺れ、胸よりも豊満にバウンドしている。他の男達は胸を揉んだり尻を叩いたり、口を使ったりとやりたい放題だ。

「すげえ尻だな。家畜とやってる気分だぜ。そら、中出しだ。ありがたく受け取れ！」

「いやああ……！！」

どっくんどっくんどっくんっつ………！！

もう何回目なのか分からない、男根から発射される灼熱の逆り。濃厚な白濁汁が腸内を逆流し、ミルク色の水溜りを形成している。今度のは量が多い。男の両手は巨大尻をしっかりと掴み、美しい獲物を逃さない。腹がギュルルッ……と不穏な音を立てる。朝から何回もアナルセックスと腸内射精を繰り返されているため、常に下痢のような状態にあるのだ。懇願してもトイレに行かせてもらえないことは、ここ数日間の経験で痛いほど熟知している。

（ああ……お腹が痛い。トイレに行きたいっ……またこの人達の前で排泄させられるの？ いやああ……恥ずかしい！）

白濁色の下痢便が渦巻く腸内に、また別の闖入者が入り込んでくる。エラの張った男根が灼熱の杭のごとくアナルに突き刺さり、虚しく蠕動する腸内を異物が前後する苦しみにミハルは脂汗を流し、呻くしかない。

食事は彼らの気が向いた時に、残飯が犬の餌みたいに皿に盛られる。水も同様に床の上

に置かれたものを舌で舐めて飲む。彼女が食事していようが、お構いなしに肛門は貫かれ、休む暇なく激しく犯される。

「ひひひ。面白い趣向を思いついたぜ」

白衣の男は屹立したペニスに、マスタードを塗った。さらにタバスコを振り掛けると、どす黒いペニスが黄色と赤でデコレートされ、鬼の責棒となる。

「こいつで肛門を犯してやる。ひひひ、どうなるかなあ」

ずぶう！！ 連続アナルファックで、肛門はすっかりくつろいでいる。肉棒がゆっくり沈み込み、根元までミハルの肛内に埋まる。実験や激しいファックの連続で傷ついた腸管にマスタードとタバスコが染み込み、燃え上がるような激痛が走った。

「ギッ！？ ぎやああああああ！！？ 痛だああいい！！」

「いひひ。いい締めつけだ。ケツマンコの中がぐにゅぐにゅ蠢いて、亀頭を包み込んできやがる。すげえぞ」

ぐっちゅぐっちゅ、ぐっちゅぐっちゅ！！

激痛で暴れるミハルの巨大尻を両手で押さえ、柔らかい肉丘にしがみつくようにペニスを激しく前後する。刺激性の調味料が痛む腸内にさらに擦り込まれ、敏感になった腸肉を肉槍で貫くとばかりにピストンされ、しごき抜かれると、ミハルはあられもなく泣き叫ぶしかなかった。

最後にたっぷりと肛内射精されると、ザーメンが傷口に染みた。

「よし、俺もやってみよう。2本挿しに挑戦だ」

「おう」

ミハルの姿に興奮した別の白衣達が、いきり立つペニスにマスタードとタバスコを振り掛ける。最初の一人が挿入しただけでミハルは「痛い、痛い！！」と全身で拒絶したが、別の一人がさらに肛門にペニスを押し付け、男の力で無理やり挿入し、2本挿しを極めてしまう。

肛門がぱっくりと開き、サーモンピンクの肉色が露出する。

「……ぐぎいい！？ 無理無理むりむりい！！ 肛門が痛すぎるう！！ お尻破れるっ、お腹が壊れちゃうよおお！！」

二人の男はときに息を合わせ、ときにバラバラに前後から苦悶するミハルを挟み、その巨大尻を抱いて肛門を責める。ピストンするたびグチュグチュと調味料と腸汁の混合した汁が恥ずかしい音を奏でる。肛門にペニスを2本同時挿入——余りにも酷い、女を蹂躪する変態行為に、ミハルは泣きながら尻穴を締めつけ、早く射精して終わりにしてもらうしかなかった。

「うおおお。腸肉が絡みついてくる。いよいよぶちまけるぞ。2本同時射精だ！！」

「ケツ穴でイけっ、尻マゾ豚あ！！」

——どっくんっ！！

興奮の極みにある男達は勝手なことを叫びながら、同時にミハルの肛内で果てる。

大量の白濁が腸管を逆流し、痛む腸内をさらなる激痛で侵食していく。ザーメンが傷口に染み、吐き気すら伴う下痢の苦しみに、ミハルは頭が真っ白になった。

「……うううッ!!!」

男達のペニスが引き抜かれた瞬間、マスタードとタバスコの黄赤が混じった白濁色の宿便が、豪快な音を立てて噴火する。

「また勝手に出しやがった！ 肛門で受精しろって言ってるだろ！ このバカ女！」

「今度は異種間受精だ。うひひひひ」

ミハルの前に、白い鶏卵が無数に入ったバスケットが置かれた。

連続アナルレイプと衆人環視の中での排泄という極限の恥辱を女に与えても、男達の嗜虐性を満足させるには足りないらしい。

作品サンプルをダウンロードして頂きまして、誠にありがとうございます(^^♪

体験版は以上になります。

過去作をお読みの方には、「なんで乳じゃねーんだ」と言われそうですが、今回は尻にスポットを当てた作品となっております。

相変わらず、北極星じみた作品ですので、ご購入の際は属性にご注意ください♪

「爆乳実験美畜・外伝 爆尻実験白書－母娘肛門連結エターナルスパイラル浣腸地獄－」を宜しくお願いいたします。

それにしてもタイトル長いなー……(^_ ^;)